

東日本大震災



●熊切圭介会員

強い風に吹き上げられた土埃がおさまると、目の前に津波で破壊された建物が、まるで幻のように現れた。

宮城県を中心に大震災の惨状を撮影したが、見渡すかぎり廃墟と化した市街地の光景に言葉を失った。被災地の惨状を伝えるテレビの画面や新聞の紙面から、ほんの少し目を移せば、平穏な日常の風景がそこにあるが、被災地では、360度視線を動かしても、見えるのは港や街の無残な姿だけだ。改めて自然と人間との関係について考えさせられた。

●岩木登会員



東日本大震災復興支援プロジェクト、Hearts Towada Exhibitionが、十和田市現代美術館において4月29日から5月15日まで開催された。オノ・ヨーコや草間彌生など世界の第一線で活躍する現代アーティストの作品を集め内外で注目されている今、話題の美術館ですが、そのExhibitionに僕も出品しギャラリートークもおこなってきましたので紹介します。展示・監修が森美術館館長の南條史生氏、出品作家がオノ・ヨーコ、草間彌生をはじめとする現代アート界のそうそうたるメンバーで、作品を期間中にチャリティ販売し、売り上げを全額義援金にし、災害復興の一助にしようというものです。このメンバーでは僕は少し場違いという気もしますが、十和田市出身ということも

あり、写真家としてただ一人参加させていただいた。「震災前日の八甲田」、「4.11 大槌町」「震災後 八戸・蕪島のウミネコ」の3点。時間的に額装が間に合わず、キヤノンマーケティングジャパン(株)様の協力を得て160cmのロールプリントを自分の車で運び、会場6m×4mの割り当てスペースにピンで貼付けるといふ荒っぽい展示をした。どうやらおかげさまで大好評のようです。(僕は、被災地岩手への支援活動があったため2日間しか滞在できませんでした。)NHK、民放、ラジオ、新聞各社の取材・インタビューを受け、それが報道されて、連日満員だったそうです。市民とアーティストが一体となって被災地を支援してゆく大きな流れのようなものを感じました。僕はこれからも長く被災地東北を支援してゆくつもりです。美しい自然は残っている。東北を再建しよう。写真家も支えよう。僕らのチーム東北支援東京写真家チームTSTSTにもご協力お願いします。

●橋本紘二会員

3月11日の夜、大津波で街々を流していく様子をテレビで恐々としてみているが、その次の日の夜明け前に私が移住している新潟県十日町市松之山に震度6の地震がきた。震源地は山ひとつ越えた長野県柴村であった。太平洋沿岸の被災地を取材に行



ったのは2週間後の3月24日からであった。私の家の後片付けや傾いた友人の家の復興手伝いなどで2週間後になったのである。岩手県宮古市から南下し、福島県南相馬市までの被災地を12日間かけて見て回った。津波に襲われ街は無惨。消防車がガレキのなかに何台も横たわっていた。救助に行った消防団員たちは流されていったのだろう。いたたまれない惨状だった。狭心症を抱えている私の胸は時々苦しみ、ニトロを飲んで忍んだ。こ

災支援情報

のとき撮った写真は「現代農業」誌に12ページで掲載。そして、知人のカフェの2階にあるギャラリーで5月4日から20日まで義援募金写真展を開催した。

そして今は、福島原発の放射能被災地を撮影し回っている。

●石橋睦美会員

写真集「歴史原風景」から抜粋したオリジナルプリント30点を展示いたします。この写真展では、北海道から沖縄まで歴



史に関わりのある場所を訪ね、往時の風景に思い馳せて撮影し、日本の原風景を表現しようと致しました。この度の震災で被害を受けた松島の作品も展示いたします。私はこの作品集に限らず、東北の風景を長く撮影してきました。そのような縁で、何か支援が出来ないだろうかと考えてきました。思いついたのが置き去りにされた犬や猫へ手を差し伸べることでした。山形のペットショップ「ペットハーバー」のオーナーが、動物支援のボランティア活動を震災と同時に開始しています。

そのための協力として、写真展会場で私のオリジナルプリントを頒布することに致しました。売上金を動物救助活動の資金にあてます。A4オリジナルプリントの頒布は全額、展示作品は頒布金の20%寄付致します。

会場・ぎやるり葦。期間・7月16日から31日まで。住所・〒990-0039 山形市香澄町2-1-4 TEL:0236-22-1234 すでに震災から50日が過ぎました。

●内堀タケシ会員

今回感じたのは復興の格差というか、各地での対処の違いです。石巻では一気に瓦礫撤去を進めていますが、小さな被災地域ではどのように復興を進めたら良いのか被災者との折り合いを見出せていないのが現状です。

また、避難所となっている学校では授業が再開され、体育館や教室を明け渡さなければなりません。被災者の暮らす場所が失われつつあります。



避難所で暮らす人は少し減りましたが高齢者が目立ちます。現在避難所に残っている方は頼れる親類もなく避難所以外に住む場所のない人々です。

さらに集団避難先でも廃校などで暮らす避難所と同様な生活をしているのに驚きました。物資も大きな避難所では一括管理が進み、小さな支援は行いにくくなっています。そこで避難所の中や個人から個人に物資を渡すようにしています。

●東日本大震災について賛助会員の情報

今回の震災により賛助会員の中にも被災を受けた方々もおられますが、被災地域を支援しようと様々な活動（機材やソフトの提供・義援金拠出・写真展の支援など）が続けられています。被災地で被害にあった機材の修理やライセンスの再発行などへの対応もなされておりますので、詳しくは賛助会員のホームページや協会担当者にお尋ねください。

また被害を受けた瓦礫の中から写真を探し出し少しでもきれいにして持ち主に戻すボランティアの活動が報道され、一枚の写真の価値が再認識されています。賛助会員の富士フィルム(株)では「津波で被害をうけた写真をきれいにする活動」を続けており、写真の修復の情報を流しております。津波による水や泥かぶりにあった銀塩プリント・ネガへの対処方法に関してはホームページにて告知しておりますが、富士フィルム(株) お客様コミュニケーションセンター・電話03-5786-1712でも対応しています。また被災地での「写真救済プロジェクト」の拠点として相談窓口を増やしていきたいとのことで、ご協力いただける拠点をお持ちの方は、富士フィルムコンタクトセンター 写真プリント救済支援係までご連絡ください。臨時電話番号042-481-8399（平日9:00～17:40・土日祝日休み）ボランティア先の紹介や対処法の提供が行われるとのことです。（記／総務）

「東日本大震災支援情報」の掲載記事を募集しています。写真を添えて、総務までお寄せ下さい。